

事例紹介*：大阪北部を震源とする地震における人流解析について 新潟大学危機管理室 田村圭子

1. 「人流(Agoop)」

個々の人流ポイントの時系列の移動をタイムスライダーで制御可能なアニメーションとして可視化。

2. 「混雑統計(発災日)」

発災日の 250m メッシュ毎の混雑統計をカラーランプにて可視化。これにより、時間帯ごとの人流滞留メッシュを可視化。

3. 「混雑統計(前週との差分)」

前週の同じメッシュの同じ時間帯の混雑統計と発災日の統計の差分を可視化。±1000 人／時、+1001～+2000、+2001 以上、-1001～-2000、-2001 以上の差分を色分けして表現し、地震により特に平常時よりも人流が増加したメッシュ、および人流が減ったメッシュを可視化。

4. 「混雑統計分析(ダッシュボード)」

差分メッシュデータと、茨木市の用途地域ポリゴンをオーバーレイし、人流が増加・減少したメッシュを用途別に分析。

■結果と考察■

- ・災害発生当日の午前中は住宅地の人流が増加し、商業地の人流が減少した事が新たな知見として導出
- ・公共交通流が停止した事により通勤や通学、消費活動等ができない人流が住宅地に停滞したためと考えられる

*官民データ連携による応急対応促進(PRISM)～地震分布の詳細化による早期復旧技術の開発～